

ゼロ時間の謎

2007(平成19)年11月19日鑑賞(GAGA 試写室)

★★★★



監督＝バスカル・トマ／原作＝アガサ・クリスティー『ゼロ時間へ』（早川書房刊）／出演＝フランソワ・モレル／ダニエル・ダリユー／メルヴィル・プボー／ローラ・スメット／キアラ・マストロヤンニ／アレサンドラ・マルチネス／クレマン・トマ／ジャック・セレイ／グザヴィエ・ティアム（ファインフィルムズ、熱帯美術館配給／2007年フランス映画／108分）

第2章

映像が先か、活字が先か

……ミステリーの女王アガサ・クリスティーのベスト10に入る傑作がスクリーン上に登場！ まずは「ゼロ時間」の意義を理解したうえで、別荘に集う主人公たちのキャラを理解し、人間関係を整理しておこう。被害者は大金持ちの別荘の所有者ただ1人。しかして、その犯人は……？ 緻密に計算された構成とアツと驚く結末に、あなたはきっと大満足！



傑作ミステリーの評論は難しい……

アガサ・クリスティーの推理小説が面白いことは周知の事実。そしてプレスシートには、「ミステリーの女王アガサ・クリスティー、100冊近くに及ぶその著作群の中でも、生涯のベスト10の1本として、『そして誰もいなくなった』『アクロイド殺し』『オリент急行の殺人』と並んで選ぶ傑作ミステリー『ゼロ時間へ』がついに待望の映画化」と書いてあるから、期待はふくらむばかり。

もっとも、私は強烈な推理小説ファンというわけではないから、『オリент急行殺人事件』（74年）も『ナイル殺人事件』（78年）も観た記憶はあるが、そのストーリーやトリックなどは全然覚えていない。推理小説を映画化した場合、監督は著者と同じようにどこまで観客を騙し、どこで種明かしをするかを楽しみながら仕事ができるかもしれないが、ミステリーの映画評論は難しい。なぜなら、そこでは犯人をバラすことはもちろん、トリックの説明もすべて御法度だから。さあ、そこでこの映画をどのように評論しようか、私は大いに迷ったが……。

 「ゼロ時間」とは……？

「ゼロ」をタイトルにした推理小説の傑作が松本清張の『ゼロの焦点』だが、このタイトルの解釈は難しい。なぜなら、これは合う焦点がないという意味にも取れるし、逆に分散していた視点が一挙に集中してくるという意味にも取れるから……？

これに対して、「物語は進行するうちに、偶然や必然のできごとがからみ合い、沸点を迎えて事件が起る。ある日、ある時刻、ある場所で起る沸点を、アガサ・クリスティーはゼロ時間とよんでいる」とのこと。

この映画を鑑賞するにあたって、まずこれを最小限の知識として頭に入れておく必要がある。

 主要な登場人物は……？

アガサ・クリスティーが『ゼロ時間の謎』で主演として登場させたのは、ハンサムなテニスプレーヤーのギョーム・ネヴィル（メルヴィル・プポー）。そして面白い設定は、彼の現在の若く美しい妻キャロリーヌ（ローラ・スメット）と、別れた前の妻オード（キアラ・マストロヤンニ）の両者を別荘で鉢合わせさせたこと。さらに、別荘には昔からオードに恋い焦がれていた親戚のトマ・ロンドー（クレマン・トマ）とキャロリーヌの友人でジゴロのフレッド・ラティマー（グザヴィエ・ティアム）が登場するから、のっけからややこしそう。

これでは、何らかの事件が起こらないはずがない……？

 別荘で迎えるのは……？

ギョームが毎年夏に訪れるブルゴーニュ地方の海辺にある別荘は、大金持ちの叔母のカミーラ・トレシリアン（ダニエル・ダリユー）が所有するもの。このカミーラは自由奔放なキャロリーヌを下品だと嫌っていたから、キャロリーヌはもともとこの別荘には行きたくなかったのだが……？

カミーラに付き添うのは、長らく叔母の付き人をやっているマリ＝アドリーヌ（アレサンドラ・マルチネス）だが、キャロリーヌとオードが角をつき合わせるたびにギョームが右往左往している姿を見るのは、マリにとっても頭の痛いこと。何も問題が起こらなければいいが、とマリは秘かに心配していたが……。

カミーラ殺しの犯人は誰……？

犯罪の陰にはオンナがあり、犯罪の目的はカネに決まっている……？ とすると、『ゼロ時間の謎』の第1のテーマは、キャロリーヌとオードの女同士の嫉妬。そのテーマについては、2人の間に立つギョームがどんな対応を示すのかが第1のポイントであり、2人の女にトマとフレッドがどのように絡んでくるのかが第2のポイント。

また、『ゼロ時間の謎』の第2のテーマは、今は水面下にある大金持ちの叔母カミーラの財産相続問題だが、カミーラが死ねばたちまちその問題が顕在化することに。そんな場合、彼女の莫大な財産は誰が承継するの……？

そんな2つのテーマだから、この映画での犠牲者はカミーラに決まっている。別荘におけるキャロリーヌとオードのケンカがあまりにも目に余ると考えたカミーラは、ギョームを部屋に呼んで事態を收拾するべくオードを別荘から出て行かせると宣言したが、そこでギョームは「あなたにそんな権利はない！」と激怒したため大ゲンカに……。そして翌朝発見されたのが、ベッド上で血を流し死体となっているカミーラ。さあ、カミーラ殺しの犯人は誰……？

名探偵バタイユ警視の登場！

映画前半ではこれらの登場人物たちによる別荘内での種々のゴタゴタが紹介されるが、もちろん犯人が誰であるかを推測させるネタはどこにも登場しない。したがって、観客と同じように、カミーラ殺人事件について何の情報もないのは、バカンスを急遽取りやめて別荘に招集された名探偵バタイユ警視とその甥のレカも同じ。つまり、情報ゼロの状態から関係者の証言を聞き出して意味のある情報をつなぎ、犯人を特定していくというとても大変な推理ゲームがここからスタートしたわけだ。こんなケースの場合、最初に疑いをかけられるのは、カミーラが殺される前日激昂して口論していたギョームだが、犯人捜しのストーリーがそれほど単純でないのは当然。

お楽しみは、あなた自身の目で……

この映画に関しては、私の評論はこれくらいにしておこう。緻密に計算されたあっと驚く伏線の数々と名探偵バタイユ警視の見事な謎解きにあなたがひきこまれ、鑑賞後「ああ、面白かったナ」と満足することまちがいなし！ 2007(平成19)年11月24日記